

寺
こよみ

十月

一日	板屋お講
五日	清掃奉仕
七日	関東参拝旅行
九日	聞法会
十一日	富山滑川報恩講
十四日	お道具磨き
十五日	三日市お講
十六日	米とぎ
一七日	お華束屋内清掃
一八日	報恩講速夜初夜
一九日	報恩講日中満座
二〇日	魚津報恩講
二二日	経田柳沢窪野田家 報恩講
二三日	
二四日	真照寺報恩講
二七日	青木報恩講
二七日	称名寺報恩講
二八日	東狐報恩講
二八日	飯野芦崎報恩講
二九日	板屋報恩講
三〇日	

寺報

善 巧

発行
〒938-0862 富山県
下新川郡宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975
メール zengyou@box.email.ne.jp

もくじ

- 2面 法話 (利井明弘師)
- 4面 お盆行事
- 5面 行事報告
- 6面 雪ん子の夏
- 7面 いい人いい出会い
お仏壇について
- 8面 行事予定
報恩講 10月19、20日
講師…梯實圓師
空華忌 11月4、5日
講師…高田慈昭師



花が開く前の蓮

弘長二年（一二六二）十一月二十八日、親鸞聖人が、九十歳を一期としてご往生あそばされてから、七百四十一年の歳月が流れていきました。時は移り、人は替わり、社会の状況も、生活環境もはげしく変化しています。が、聖人のみ跡を慕う念佛者たちは、毎年の報恩講を大切にお勤めしてまいりました。

報恩講とは、親鸞聖人の祥月命日に当たる十一月二十八日を中心に、遺弟子たちが聖人のご恩徳を偲んで報恩のまことを捧げるご法座のことです。しかし旧暦の弘長二年十一月二十八日は、新暦になおすと、翌年の一月十六日になりますので、本願寺派（西本願寺）では、一月十六日をご命日と定め、その日まで七日七夜にわたって報恩講を勤めるようにしています。

この法要を正式に「報

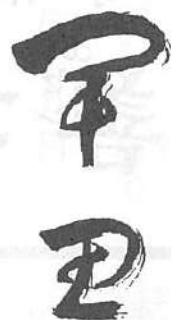
報恩講について

「報恩講」と呼ぶようになったのは、恐らく親鸞聖人の曾孫で、本願寺の第三代の宗主である、覚如上人のころからでしょう。

親鸞聖人の御廟所を「本願寺」という寺院にし、親鸞聖人のみ教えを顕彰された方でした。親鸞聖人の三十三回忌にあたる永仁二年（一二九四）に、聖人のご高徳を讃える『報恩講私記』（お式文）という「讃文」を著されましたが、これが報恩講という名称が用いられた最初です。覚如上人二十五歳の時でした。上人はその翌年、『本願寺聖人親鸞伝絵』という二巻十五段の絵巻物を著されています。

報恩講のご法座では、「お式文」や『御伝鈔』を心静かに拝聴し、「御絵伝」を拝見して、聖人の御恩徳を偲ばせていただきます。

本願寺派勸学 梯實圓師
(報恩講にご出講です)



空華忌講話 ③

(平成十四年)

行信教校長

利井明弘師 (最終回)



光雲無碍如虚空
一切の有碍にさわりなし
光沢かむるものぞなき
難思議を帰命せよ

ここまで阿弥陀さま自体、阿弥陀さまご自身のお徳を話してきました。その次阿弥陀さまのおはたらき。それは無碍にはたらい下さる。

我々は末法五濁の凡夫ですね。鮮妙の言葉にあ

りますよ。いつもよく聴聞に来る御同行が、ちよつと間が空いてお参りに来た時に、「聴聞はすすんでおるかな。」と聞いた。そしたら「常見寺にはちよつと来れませんでしたけど、あっちこっちのお寺でお参りさせて貰ってます。それでもなあ御院さん、まだ煩惱がぼちぼち出ましてなあ。」と言った。そしたら鮮妙が「あんたは煩惱がぼちぼちしか出んのか。」とびっくりしたつていう話を書いてある。実は天岸先生に聞いてすごいなあつて思ったことがあるんです。それは国王やった法蔵比丘が、世自在王仏の教えを聞いて感動して、国・王位を捨て、すべてを捨てて出家して沙門となったんやろ。それで最初に言

われたのが「光顔巍巍」からはじまる讃仏偈やね。我々阿弥陀さまの前で世自在王仏をたたえる偈をお勤めしてるんですね。不思議に思わない？それやったら讃阿弥陀仏偈のほうがいいのじゃないか？でもね。我々もお念仏をよるこんでる人に遇うつていうことが大切なんです。阿弥陀さまにも師匠がおられたということが大切なんです。それが偈文になつてゐるんです。大体お経などで偈文になつてるところは大切なことが説いてあるところですからね。あそこには法蔵菩薩の四弘誓願も決意も述べられてゐるけども、当面は師匠に遇つたつていうことがすごい事ですね。人を通さなければほんとうのものは分からないんですね。今まで美味しいもの食べたことあるやろ。忘れられん味つて

弟子は師匠を超えてはじめて弟子という

いうのがあるやろ。「ちよつと説明してよ、ちよつと僕に味わわせてよ。」つて言つたらどうする。「そんなもの言えるかい。」つてなるやろ。「一緒に食べよう。」つてなるやろ。それが伝わるんですね。「これうまい！」つて言つたら一緒に食べてたら分かるやろ。

さあそこでこの世自在

王仏に遇われた法蔵比丘がそのあとこう言われる。「私はあなたのようなきとりを開きたい。そして生死勤苦の本を抜きたい。」生起勤苦の本つていったら煩惱です。煩惱もつてるものを救いたいと言つたんです。よく考えて。十方諸仏は煩惱にさわりがあるんです。煩惱を持つてるものは救われな。だからこういう修行をしたら煩惱は除かれる、六

波羅蜜を修行してきれいになつて来なさい。きれいになる方法、浄土に生まれる方法を教えているんです。世自在王仏もそうでしょ。十方諸仏の一人です。それに「あなたの救えない煩惱をもつた凡夫を救いたい。そういう仏になりたい。」と言つておられる。そしたら世自在王仏が「汝自當知」とおっしゃる。「汝、自らまさに知るべし。」僕はそれが分からなかつた。そんな大切なことは自分でちゃんと実行して、修行して悟つていくものだ、こう言われたのか、なあと思つたり、もしくは「論註」に曇鸞大師が法蔵菩薩は八地以上の菩薩で、自分で悟ろうとしたら全部悟れるような菩薩やったから自分でやつたらいいじゃないかと言われたのかあと思つてた。ところが天岸浄円

師は「あれはやつぱり世自在王仏だつてビックリなさつたんですよ。自分もできないことを教えてくれと言われて。」そう言われた。その通りですね。僕、有難いなあと思つた。それで重ねて法蔵菩薩がお願いしますと言つたら、自分の知つてるところまではということでも二百一十億の諸仏の浄土を見せられた。これで分かつたんです。「汝自當知」が。自分もできないことを弟子が師匠に言つたから世自在王仏がビックリなされた。これはなるほどその通りですなつて梯和上に言つたんです。そしたら梯和上がもう一つ凄いこと言われた。「師弟関係で弟子は師匠を超えてはじめて弟子といひます。」みんな超えなあかんよ。それは念仏に遇うということですよ。

こと言われます。「弟子は師匠を超えてはじめて弟子といひます。」みんな超えなあかんよ。それは念仏に遇うということですよ。

弥陀の本願まことにおはしまさば、釈尊の説教虚言なるべからず。仏説まことにおはしまさば、善導の御釈虚言したもうべからず。善導の御釈まことならば、法然の仰せそらごとならんや。

これ師匠・師匠となつてゐるね。そやけど一番向こうは弥陀の本願です。それを法蔵菩薩は世自在王仏の教えを聞いて、世自在王仏の教えは限界がある。さわりがある。煩惱に。そこで五劫思惟される。そして四十八願を建てる。四十八願はまだ願ひ、因です。それを完成するために永劫の間修行されるんです。その永

劫の修行されたことをお釈迦さまが説いて下さつたら、阿難が「それなら法蔵菩薩はまだ修行中ですか？」つて聞いた。それしたら「いまに十劫を経たまへり」と言われる。

そこでどのように成仏してくださつたのかというと、南無阿彌陀仏です。そこで「さわりなく」になるんです。十方諸仏の教えも穴ぐらに竈つておつても、全部扉閉めても通つてくる。だけど煩惱だけはどうしたつてあかん。

世自在王仏だつてあかん。それを世自在王仏のみもとで法蔵比丘は五劫思惟し、四十八願を建て永劫の修行をして、十劫前に南無阿彌陀仏となつてくださつた。それが今現にはたらいてくださる。いつでもどこでもですから。そこらのところを味わつてもらいたい。これがはたらきの代表です。無碍光。阿彌陀さまのはたらきの代表です。十方諸仏

は全部さわりがあるものを、さわりなく救うんです。それで尽十方無碍光如来と天親菩薩はおつしやる。だから親鸞聖人の御消息には「詮ずるところ無碍光なり」と書いてある。無碍光が中心。無量・無辺は自です。阿彌陀さまのご自身のお徳です。だけでもはたらいてきたところで頂くと無碍とはたらいてくださる。このことを味わつてもらいたいと思います。

— 完 —



大いなる

虹 秋空に

染まりけり

喜子

宮繕部から

参道のコンクリートの痛みが憂慮されて久しかったところ、島田工務店が修繕工事を請負い祠堂会までに完了しました。ごらん通り、境内が整然としました。あわせて土蔵の屋根の補強、集会所の床板の張替えも同時に完了しました。



側溝、集会所床などが修繕されました！



お盆賑やかに！

十三日の青年盆会に始
まって、十五日のこども
盆おどりでは「焼きそば」
が初登場！そして十六日
の盆会と、こどもも大人
も大いに楽しんだお盆で
した。



青年盆会ーおつとめ・おはなしの後のバーベキュー



仏婦研修会—那須野先生

七月五日、昨年と同じように那須野先生をお招きして研修会が開催されました。仏婦会員以外にも多く聞法していただき、聞くことの大切さを感じたことでした。昨年の反省から本堂で聞法、温泉でゆったりと、より聞きやすく楽しみやすくなりました。宇奈月温泉も格安でみなさん満足の表情でした。



栃木より初出講の宗崎先生



聞法の道場

永代祠堂会

今年は近年まれにみる涼しさの中、とても過ごしやすい四日間で、のべ二百人以上がご参拝。お二人の先生をお迎えしての贅沢な法要で、心温まるおはなしを頂戴しました。



仏教婦人会による献灯・献花



本山ご助成会

豪華講師陣！

「私達のご本山をお守りしていきましよう」という志で勤められるのが本山助成会で、皆様からの懇志は本山に納めます。今年は五年に一回の善巧寺門徒の当番で、宿寺となりました。



総代、仏婦、お世話方での清掃奉仕



おなじみの高務先生

長谷谷口治夫さん（音沢）、世話役の野畑博さん（栃屋）たち二十人余の会員が出品してくださいました。また素敵な作品を期待しています！



『フォトクラブ写真展』のみなさんによる写真展が七月中旬と八月中旬の二回にわたって門徒会館ロビーで開催。会

写真展好評のうちに



ご助成—福井より三寄先生

熱に練習に向け番本

雪ん子劇団シニア

宇奈月 24 日、兵庫で招待公演

星ぶし精一杯張る

宇奈月町浦山の善巧寺を拠点に活動する「雪ん子劇団シニア」が十七日夜、今月二十四日に迫った兵庫県出石町ひほこホールでの「桃次郎の冒険」公演を前に同寺本堂で最後の練習に励んだ。シニア公演は山口県下関市での「ハッピーゲーム」以来で、三年ぶりとなる。

「雪ん子劇団」は一九九三年に結成された。代表を務めるのは九〇年にガンで亡くなったが、妻の玲子さんが活動を受け継ぎ、九四年（平成六）年に中学生以上でシニアを結成。九七年八月に神戸シニールホールで大震災復興支援の手話ミュージカル「ぼたる」を上演するなど活動を展開している。

雪ん子さんは「シニア団員の練習が小学生にもいい影響を与えている。せつかくの機会を与えられたい、精一杯頑張りたい」と話している。（富山新聞より）



「桃次郎の冒険」の練習に励むシニア団員 宇奈月町浦山の善巧寺

出石町での公演は昨年、浄土真宗本願寺派出石組から「五十周年記念」と招待された。兵庫県北部の城下町で、今年一月にシニア団員に声を掛け、基礎練習の後、五月から台本読み。今月十日に同寺で地元テレビユー（公開練習）を行うなど練習を積んできた。

出演するのはシニア十八人と小学生四人、照明や音響など総勢約三十人。団員には社会人が五人、大学生もあり、雪ん子さんは「全員での練習がなかなかできなかった」と振り返る。



「桃次郎の冒険」ラストシーン

兵庫県出石組では三年前から実行委員会をつくって二百人を超える方々が、大会を遂行されました。その熱気のなかで雪ん子たちは懸命な舞台をつとめました。



満堂の「お寺座」定期公演より



出石町ひほこホールいっぱいのお客様

寺
こよみ

十一月

一日 愛本新お講

二日 屋内清掃

三日 順昌寺報恩講

四日 空華忌お初夜

五日 空華忌ご満座

六日 上野報恩講

七日 雪ん子飯野公演

八日 発願寺報恩講・

九日 継職奉告法要

十日 中新報恩講

十一日 光闍寺報恩講

十二日 出報恩講

一十三日 中陣報恩講

一十四日 浦山新お講

一十五日 析沢報恩講

一十六日 浦山新報恩講

一十七日 石田報恩講

一十八日 愛本新報恩講

一十九日 愛本新中ノ口

二十日 赤田報恩講

いい人いい出会い

教化部「Y」

『まだまだ元気だよ』

初秋の朝浦山の中山家をたずねた。六十六才で普通免許を取得されたと聞いて、まずびっく



中山慶太郎さんは、明治四十一年六月生まれ九十五才、すこぶるお元気で運転もしておられる。

支那事変等では三回の出征、中支、満州で戦争体験をされた。同僚が自分の横で戦死していく状況に、「寿命」というより「運命」を感じたとおっしゃる。

ボイラーマン・警察官・

交通安全協会専務・自動車会社・安全協会事務と七十才迄勤務された。

乳牛の飼育も経験されて共進会では静岡迄貨車で行かれたとか。

中山さん曰く「持論ですが、草をたくさん食べ

好奇心旺盛95才

させて運動させれば良い牛が育つ。朝一番の排便を見て健康がわかる。私の健康法は牛に習いました」

家の若いもんは勤めで帰りが遅いので、自分で買い物をして自分で食事を作られるそうだ。

「もう一度インドへ行きたい」

「来年は免許が書き換えなので、運転を止めて電気スクーターを買いたい」

「是非巨大カボチャを植えてみたい」

と次々に夢を語られる。

そんな中山さんに青年の顔を見た。(Y)



教化部のふたりと記念撮影

仏壇の意義

仏壇は、わたしたちをお救いくださる如来さまを礼拝するために安置するものです。うちに亡くなった人がいないからまだいらないと考える人がいますがこれはまちがいです。

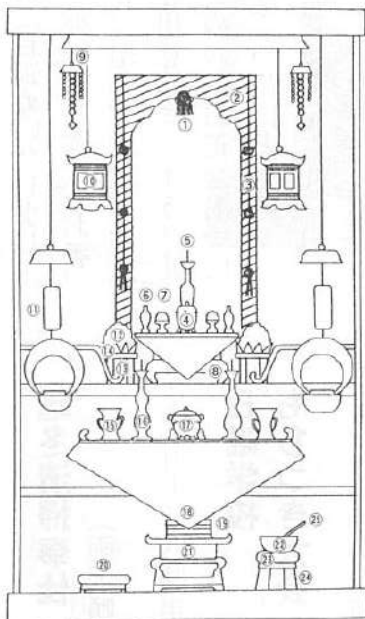
仏壇は死者のためのものでもなく、また位牌（イハイ）を置く場所でもありません。日々を生きる力のものである如来のお慈悲に、わたしがあう場所なのです。

家族のひとりひとりが

偉いものになっていては、家庭はとかく円満を欠きますが、仏前に謙虚に座して如来の慈悲を仰げば、みずからの姿を知らされ、心が明るくひらけてくるでしょう。

ですから仏壇は、わたしの心の鏡であり、生活の鏡でもあるわけです。美しい仏壇は真実なる国、お浄土のまねごととしてつくられています。その仏壇を仰ぎつつ、わたしたちも、浄土のまねごとをさせていただくこうではありませんか。

- ①ケマン
- ②トチョウ
- ③アゲマキ
- ④カシャ
- ⑤ロウソク立
- ⑥華瓶
- ⑦仏飯器
- ⑧上卓
- ⑨ヨウラク
- ⑩灯籠
- ⑪輪灯
- ⑫供物
- ⑬クゲ
- ⑭方立
- ⑮花瓶
- ⑯ロウソク立
- ⑰香炉
- ⑱打敷
- ⑲聖典
- ⑳御文章
- ㉑和讃卓
- ㉒リン
- ㉓リン布団
- ㉔リン台
- ㉕パチ



十二月	
一日	下立愛本お講
二日	下村大橋報恩講
三日	下村報恩講
五日	清掃奉仕
七日	下立愛本報恩講
八日	内山報恩講
九日	音沢報恩講
一〇日	浦山お講
一一日	聞法会
一六日	音沢報恩講
一七日	米とぎ
一八日	もちつき
二〇日	日校もちつき
二九日	除夜会
三〇日	
三一日	

報 恩 講

浄土真宗で最も大切な法要です。

十月十九日 午後一時半 お逮夜

午後七時 お初夜

二十日 午前十時 お日中

午後一時半 ご満座

「真実の行」

本願寺派勸学 梯 實圓 師



本願寺派最高峰の先生がご出講されます。この機会をお見逃しなく！

空 華 忌

善巧寺限定の貴重な法要です。

十一月四日 午後七時 お初夜

五日 午前十時 お日中

午後一時 ご満座

「本願の宗教」

本願寺派司教 高田慈昭 師



ほんこさん

十月十四日富山から

年に一度のほんこさま、大切にお勤めいたしました。う。赤いろうそく、お香、お花、聖典、式章、お念珠を用意しましょう。おつとめの『お正信偈』は是非ご一緒にどうぞ。会費は今年も九千円です。



神子、雪山、高島

今年もこの3人でお参りさせていただきます！

報恩講準備

十月五日八時半 清掃奉仕

十五日八時半 お道具磨き

十七日八時半 米とぎ

十八日八時半 お華束・掃除

空華忌準備

十一月一日八時半 屋内清掃

越冬清掃奉仕

(雨天順延)

十二月七日八時半

日曜学校もちつき大会

十二月三十日午前十時



除夜会

お勤め

十二月三十一日

午後十一時半

除夜の鐘

一月一日午前〇時

合 掌

今年の夏は日照りが少なく、雨が長く、農作物にかなりの影響が出ています。夏のはじめに心配していた通りになりました。刈り取りもかなり遅くなつたか、みなさんの所はどうでしょうか。

* * *

さて、聞法の秋を迎えてうれしいご縁が続きます。報恩講には梯和上、空華忌には高田和上と大勢の行信の学生さんをお迎えします。こんなご縁はそうそうありません。あなたの人生を変えてしまふほどの法縁に出会えるかもしれません。どうぞお参りください。

